

令和7年度 第3回 紀南高等学校・熊野青藍高等学校紀南校舎  
学校運営協議会 議事概要

日 時	令和7年11月27日(木) 19:00~21:00
場 所	紀南高等学校会議室
出席者 (敬称略)	辻本、西、岩本、山本、長阪、廣畑、田尾、産屋敷、二村、立嶋、藤田 (県教育委員会) 一尾、加藤英 (紀南高校) 福田、湊 <sub>子</sub> 、込谷、池山
欠席者 (敬称略)	端無、岡本
議 事	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 「第2回紀南高等学校学校運営協議会」議事概要について</p> <p>(2) 令和8年度入学生募集に向けての取組について 普通科特進コース及び紀南校舎総合学科にポイントを置いて説明を実施</p> <p>(3) 差別事象の発生状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 差別用語をどこで知ったのか、この地域で使われているのであれば問題である。原因に応じた対応、指導を。</li> <li>・ 後追い指導になってしまうと生徒には「叱られた」意識しか残らない。人権教育カリキュラムの見直しが必要である。生活文化が解決に向かわないといけない。身近でタイムリーな話題に対して取り組み、プラス面を伝えることが重要である。</li> </ul> <p>(4) その他 ⇒ なし</p>
主な意見	<p>2 協議事項</p> <p>(1) 令和7年度のおもな取組について 「地域産業とみかん」「地域創造学」「通級による指導」について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニティスクールの理念に基づき、これまで以上に取り組んでもらえるとうい。</li> <li>・ 差別発言は、相手の気持ちを汲み取ることができていないために起こる。ソーシャルスキルが身に付くことで発言はしなくなる。</li> <li>・ 対人関係が難しい生徒は1割いる。通級による指導を必要とする生徒は、今後増えていくであろう。県への要望が必要である。</li> </ul> <p>(2) 対話集会について 例年どおりご協力をお願いしたい。今年度は1年次生に加え、2年次生も対象として実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就職、進学イメージができてきている2年次生を対象にできることはよい。</li> </ul>

- ・ 講師に対し、事前に話す内容の指導ができないか。依頼時に目的、接し方を伝えられるとよい。

- ・ 生徒が事前学習をし、司会、進行をすることで内容をコントロールするとよい。

(3) 令和9年度以降の学校運営協議会について

熊野青藍高校両校舎を一体とした学校運営協議会を設置したい。

- ・ 地域とどのように連携するか、理念をしっかりと押さえてしてほしい。次代をいかに作り育てていくかを具体的に考え、それを踏まえて作ってほしい。

⇒ 両校舎ともに多くの地域の方に教育活動に協力してもらっており、その方々に参画していただくことを考えている。コミュニティスクールとしても新しい学校にしていきたい。

- ・ 木本校舎とともに、どのような形にしていくのか、委員選り等も含め来年度1年間をかけて議論していく必要がある。

- ・ 木本、紀南ではなく1つの熊野青藍と考え、地域の力を引き出せる仕組みを考える。

- ・ 両校舎の魅力を出していきたい。

- ・ 検討はどこで行うのか。準備委員会を作ってはどうか。

- ・ 両校舎1つで同じ方向を向いて活動し、学校運営していくことが一番よい。

(4) きなん小中学生俳句コンクールについて

第8回（令和7年度）で終了したい。

- ・ 代わりになる取組はあるか。

⇒ 総合学科としての授業の取組を地域に貢献する形で実施する。県の産業教育フェアに参加するなど、機会を捉えて地域をPR、地域に貢献していく。

- ・ 参加型の取組を検討してもらいたい。

(5) その他

- ・ (二村委員より) 映画「はたらく細胞」の鑑賞について

→ 議事取り下げ 学校の教育目標と教育課程との関連を考え、実施について学校で判断。

### 3 連絡事項

(1) 次回の学校運営協議会 第4回：令和8年3月4日（水）に実施予定

(2) 年度末学校評価アンケートについては、12月に保護者アンケート、その結果を資料にして2月に学校運営協議会委員のアンケートを依頼します。

(3) 配付資料の紹介 藍のかぜ

(4) その他

- ・ (田尾委員より) 1年次生対象 地元企業説明会（三重県商工会連合会主催）

12月18日に体育館で開催

- ・ 私立高等学校の授業料無償化について、令和8年度からの実施が決定している。これにより、中学生の希望が変わることが想定される。現在の体制を維持できるかの検討を設置者がすべきである。高等学校の地域に果たす役割は、従来のやり方では魅力あるところに負けてしまう状況になっているという認識が必要。